

ふるさと講座・自然系第1回目

「シギ・チドリ観察会」 のお知らせ！

この時期数多く見られる「シギ・チドリ」を中心とした観察会を行います。ぜひ、ご参加ください。

●日 時 平成30年5月20日（日）
午前9時30分～12時30分

●場 所 野付半島
(集合ー野付半島ネイチャーセンター2階)

●講 師 別海町立中春別中学校 校長 藤井 薫 氏

●定 員 15名(電話・FAX・メールにて氏名・電話番号を5月18日(金)までにご連絡ください。)

●その他 長靴を着用ください。図鑑・双眼鏡をお持ちの方は持参ください。当館でも貸出しします。



セイタカシギ

郷土資料館豊原分館開館のお知らせ！

今年度の開館をお知らせします。ぜひ、ご来館ください。



- 開館期間：5月～10月(祝日を除く)
- 開館日：毎週金曜日・毎月最終日曜日
- 開館時間：午前10時～午後4時
- 観覧料：無料
- 所在地：北海道野付郡別海町豊原17番地の15
- その他：①団体見学及び調査研究での来館は、郷土資料館までご連絡ください。
②開館日などに変更があった場合は、郷土資料館ホームページでお知らせします。



【豊原分館】

平成21年(2009)3月に閉校となった旧豊原小学校を活用し、平成28年に郷土資料館分館として開館しました。

町の歴史・自然に関する郷土資料、昭和31年(1956)より、豊原地区で実施された国の新しい開拓方式による草地酪農を目指した根釧パイロットファーム関係資料などを収蔵・展示・公開しています。



ふるさと講座・歴史系第1回目を実施しました。 歴史の道を歩く！江戸時代のハツケ ～野付通行屋跡・番屋跡遺跡

- 日 時 平成30年4月22日（日）
午前9時30分～13時30分
- 場 所 野付半島
- ガイド 別海町郷土資料館 石渡一人
- 参加者 30名

野付半島ネイチャーセンターでレクチャーのあと、通行屋跡遺跡入口まで車で移動し、そこから約2km歩きました。天候も良くオジロワシ・タンチョウ・ヒバリ、ヒドリガモなどの野鳥を観察しながら遺跡に到着しました。野付通行屋跡では、土塁、墓石、建物跡、畑の畝跡、野付番屋跡では、鯨を煮るかまど跡などを実際に見ながら、江戸時代の様子に思いを馳せました。



所蔵資料から振り返る！北海道150年、別海町のあゆみ その1 根室藤野罐詰製造所鮭罐詰出荷箱

明治11年(1878)開拓使は、現本別海に官営の缶詰所を設置します。前年の石狩缶詰所設置に次ぐもので、我が国における缶詰の歴史のはじまりといえます。アメリカの先進的な缶詰製造技術を日本に導入するために招かれていた「お雇い外国人」トリートらも別海にやってきて、缶詰製造の指導にあたりました。開拓使は西別鮭を「第一等」で「身色紅ヲナス美味最拔秀」であると絶賛していました。この鮭を使えば、外国の缶詰にも負けないおいしい缶詰を作ることができ、当初の目的である物産の拡張と海外への輸出ができる。開拓使は考えていたからです。



明治20年(1887)官営の別海缶詰所は民間に払い下げられ、藤野罐詰製造所として再出発します。海軍からの安定した注文に加え、日清戦争が始まると陸軍からも注文が入るようになり、製造能力を3倍にして対応しました。また、兵士たちが缶詰の良さを郷土で宣伝したために、缶詰の需要は全国で一気に上がり、別海以外にも続々と缶詰工場が作られ、根室地方の主要産業にまで成長することになります。

戦後、缶詰製造所の建物は一部改築され別海中学校の校舎となり、現在は別海漁協の倉庫として使用され、別海町歴史文化遺産に登録されています。

この箱は、缶詰を出荷する時に使用された木箱で、大きさが、45.5×34×30 cm、開拓使を示す星印、根室藤野罐詰製造所の焼き印が押されています。本別海の方が保存していたもので、郷土資料館に寄贈されました。また、町文化財保護審議会委員の川村俊也氏、福原義親氏の好意により缶詰のレプリカを作成・寄贈いただきました。別海町の産業を支えた貴重な資料となっています。

参考引用：別海町教育委員会生涯学習課文化財担当ホームページ別海町歴史文化遺産「旧開拓使別海缶詰所」より

別海町郷土資料館だより No.226

発行日 平成30年5月1日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記

5月になりました。当館のチシマ桜もこのところの天気でもう一息で咲きそうです。豊原分館も今年度の開館をはじめますので、ぜひ、ご来館ください。また、今月号から北海道150年という節目の年を所蔵資料から振り返ってみたいと思います。(K.I)